

2020年度 株式会社ジェイコム九州北九州局 放送番組審議会 議事録

【開催日時】 2021年3月3日(水) 午前11時00分～午後12時30分
【場 所】 株式会社ジェイコム九州北九州局 大会議室
【出席者】

放送番組審議委員：6名中5名出席 ※敬称略・順不同

《会長》

鹿毛 浩之 IGES(地域環境戦略研究機関) 北九州アーバンセンター 所長

《委員》

吉田 茂人 (皿倉登山鉄道株式会社 代表取締役社長)
古川 ひろ美 (有限会社BOND 代表取締役)
仲道 辰郎 (株式会社ゼンリン 執行役員 本社統括本部 総務人事本部 本部長)
甲木 正子 (西日本新聞社 北九州本社 副代表 兼 営業部長)

放送番組審議会事務局：8名出席

上村 忠 (株式会社ジェイコム九州 代表取締役社長)
宮田 政志 (株式会社ジェイコム九州 取締役 北九州局長)
藤野 慶太 (株式会社ジェイコム九州 北九州局 地域プロデューサー)
大久保 智美 (株式会社ジェイコム九州 北九州局 地域プロデューサー)
仲川 圭 (株式会社ジェイコム九州 地域コミュニケーション統括部 部長)
本田 憲生 (株式会社ジェイコム九州 地域コミュニケーション統括部 北九州事務所長)
今村 修 (株式会社ジェイコム九州 地域コミュニケーション統括部 制作グループ)
今石 珠貴 (株式会社ジェイコム九州 地域コミュニケーション統括部 制作グループ)



【開 会】

1) 事務局挨拶（株式会社ジェイコム九州 上村代表取締役社長）

昨年6月、代表取締役社長に就任させて頂いた。

就任にあたり、引き続き地域密着を念頭に置き、企業運営を行っていきたいと考える。

この一環として3月1日に北九州市と「災害発生時における地域支援のための人員及び車両等の提供に関する協定」を締結した。

これは、地域の企業として災害発生時に人的・物的支援を行うための協定であり、地域の皆さまの頼れる存在として恒久的にあり続けたいという意思の表れでもある。

本日は、忌憚のないご意見・ご指摘を受けたまわり、地域の皆さまに密着した生活に役立つ番組制作・編成に取り組んでいきたいと考える。

2) 議事進行（鹿毛会長）

委員6名のうち5名出席につき、放送番組審議会規程第4条に基づき、当会は成立。

3) 新委員挨拶

仲道 辰郎（株式会社ゼンリン 執行役員 本社統括本部 総務人事本部 本部長）

甲木 正子（西日本新聞社 北九州本社 副代表 兼 営業部長）

4) 番組編成方針説明（地域コミュニケーション統括部 仲川部長）

コミュニティチャンネルの最大の目標は、「地域にとって必要不可欠な存在」となること。そのために番組制作を通じて地域のステークホルダーの接触機会を積極的に創出し、地域との関係強化に努めている。また大手メディアが扱わない狭域的でできめ細やかな生活情報を放送することで地域ナンバーワンのメディアを目指している。地域のニーズに応え地域創生に貢献することが番組編成の方針である。

5) 2020年度自主制作番組実績（事務局）

北九州局におけるレギュラー番組は、14本を制作。

カテゴリーは、地域のニュース番組や地域の探訪番組など。

このうち「ジモト応援！北九州つながる NEWS」は、コロナ禍での番組制作を模索し、どうすれば地域の皆さまに有益な生活支援情報をお伝えできるかを熟慮して、今年度6月に立ち上げた番組である。

新型コロナ・安全安心・買い物グルメ・こども教育・健康サポート・おでかけ・企業しごと・まちづくりの8つのカテゴリーに分け情報をお伝えした。

後程、審議いただきたい。

一方、特別番組は、「新型コロナウイルス関連情報」、「北九州家ごはん」、「StayHome北九州」、「がんばれ福岡 2020 北九州市内高等学校野球大会」、「台風10号関連情報」、「北九州市新春座談会」、「北九州市議会議員一般選挙開票速報」の7本を制作放送した。

また受託番組として「KitaQ Music Days」、「わっしょい百万夏まつりオンラインイベント」、「宗像大社 神奈備祭」、「ニュース55北九州」を放送した。

更にチャンネル開放として北九州市立大学映像制作集団ロマンダムによる「On air! ロマンダム」と北九州市教育委員会による「家庭学習支援動画」を放送した。

6) 2020年度自主制作番組に対する質疑応答

委員：コロナ・災害時など、緊急時の対応ができていて素晴らしい。

委員：リモートでの番組構成やオンラインイベントの中継など、コロナがあったからこそその番組企画や特別番組ができたのではないか。

委員：風水害・地震など災害時には、その地域にしかわからない情報がある。より細やかな防災関連の情報を積極的に掲出してほしい。

委員：ローカル・地域密着という観点からすると、北九州市議会議員選挙の開票速報は、枠をとって放送していたのはジェイコムだけ。今後も行なってほしい。

事務局：「コロナ禍での必要な情報とは何か」など、議論を重ねてきた。

スーパーの営業時間といった生活支援情報など民放やNHKでは、掲出していない情報、更には情報の質を高めることに注力した。

課題も見えてきた。やはり如何に狭域な情報を地域密着メディアとして打ち出していくかが大切だと考えさせられた1年だった。

委員：北九州市広報番組「ニュース55北九州」に関しては、非接触型としてAIによる番組も時代を反映していると思った。AIがニュース後に感想をいれるなどすると番組に温かみが出るのではないか。

事務局：検討する。

委員：北九州市立大学の学生による「On air！ロマンダム」は、大学生の日常風景とはいえ若干ソーシャルディスタンスが取れてないように感じた。

事務局：今後、放送枠提供番組に関してもテロップでの補足を促すなど配慮する。

7) 番組審議「ジモト応援！北九州つながるNews」

《質疑応答》

委員：情報収集について教えてほしい。

事務局：これまで蓄積したネットワークや自治体などから収集している。情報は、共有フォルダにて一元管理。そこから企画にあうものを選定し、掲出している。

委員：情報がカテゴリー別になっていて分かり易い。また自治体とよく連携できている。コロナ禍において、元気を提供する番組になっている。地域密着ならではの番組なので長く続けてもらいたい。

委員：地域密着の情報を発信していて良い番組ではあるが、街のちょっとした話題など、やわらかい情報も盛り込んでみてはどうか。また情報収集の入り口として、SNSを利用してはどうか。

委員：SDGsのカテゴリーを設けてみては。幅広い活動を紹介できると思う。

事務局：番組は、コロナ禍等の不安をあおるものではなく、地域の人たちの生活を支援できるかという視点で制作している。

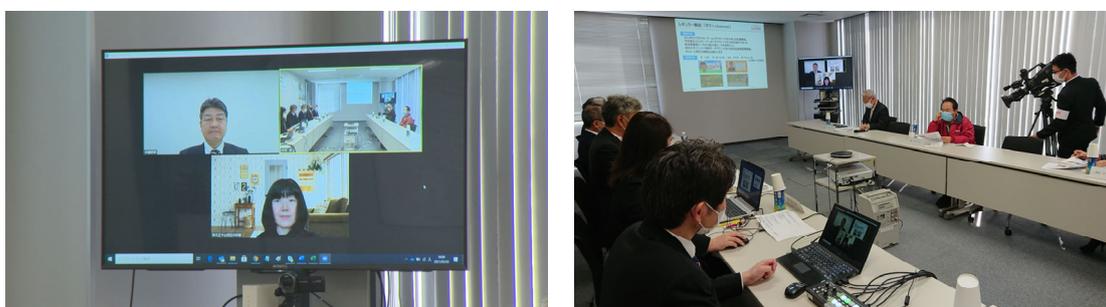
SNSに関しては、2月より立ち上げたツイッターをうまく活用したい。今後地域特派員制度も視野に入れ、狭域エリアの情報を収集し双方向による番組づくりを目指していく。

委員：視聴者もリモート出演による画面構成になれてきた。コロナ禍において、新しい形の番組演出や出演方法を学ばれたのではないかな。

事務局：放送の在り型がコロナ禍で大きく変わった。
スマホによる中継や写真提供での構成など、スタジオ収録や取材方法に変化があった。状況に応じた番組作りを今後も行っていきたいと考える。

委員：ど・ろーかるアプリをもっと活用できないかな。

事務局：全社的な課題として検討させて頂く。



8) 閉会挨拶（株式会社ジェイコム九州 宮田局長）

建設的な意見の数々に感謝申し上げます。コロナ禍の中で今までの生活スタイルが通用しない状況下において、必要な情報をどのように掲出するか学びの多い一年だった。弊社の使命は、地域の皆さんの生活に必要な情報をスピーディーに発信していくこと、また街を元気にしていくことだと考える。委員のみなさまから頂いた貴重なご意見は、今後の番組制作及びジェイコムのサービスに活かしていきたい。今後とも、ジェイコムへのご支援を宜しくお願い申し上げます。

以上